

令和4年度 丹波篠山黒豆情報

第2号 令和4年8月25日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAITひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(令和4年8月23日丹波篠山市定点調査結果より)

	主茎長(cm)	主茎節数(節)
令和4年	81.3	18.6
平年(過去10カ年平均)	70.6	17.6
平年比	115%	106%
令和3年(参考)	72.8	17.6

- 主茎長は平年(過去10カ年平均)比115%と長く、主茎節数は平年比106%とやや多くなっています。
- 梅雨明け(6月28日頃※気象庁速報値)後は、高温・多照傾向で推移し、周期的な降雨があったことから、生育は平年を上回っています。

【病虫害】(令和4年8月23日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率(%)	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和4年	4.33	0.01	0.00	0.00	0.00	0.60
平年(過去10カ年平均)	3.12	0.03	4.06	15.97	0.03	0.30
平年比	139%	29%	0%	0%	0%	200%

- 立枯性病害(茎疫病、黒根腐病など)の発生は平年並みですが、ほ場間差が見られ、一部のほ場では平年を上回って発生しています。
- サヤムシガ、ノメイガ類の発生は見られず、その他のチョウ目害虫の発生も、わずかに見られる程度です。
- 一部のほ場でハダニ類の発生が見られます。
- ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は、増加傾向で推移しています。

【今後の対策】

1 立枯性病害（茎疫病）対策

- ①近年、局地的なゲリラ豪雨が頻発する傾向です。長時間、畝間に水が停滞すると湿害や茎疫病の発生が増加することが予想されます。表面排水を促すため、排水溝の手直しや排水溝と排水口の連結などほ場の排水対策を徹底しましょう。
- ②茎疫病など立枯性病害が発生した場合は、**発病株を早急に抜き取り**、抜き取った株は、**ほ場外に持ち出して処分**しましょう。
- ③茎疫病は株元から発病するため、防除の際は薬剤が株元に十分かかるように留意し、**予防散布を主体とした定期防除**を心がけましょう。

2 害虫対策

- ①平年に比べて発生が少ない状況ですが、ほ場により発生程度に差が見られます。特に、カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは、着莢期・莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、定期的な薬剤防除を徹底しましょう。
- ②ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は増加傾向となっています。食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去し、薬剤防除を実施しましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 台風対策

- ①台風・強風により葉がもまれた場合や枝折れ等が発生した場合は、病害防止のため、早めに殺菌剤で防除しましょう。

【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

